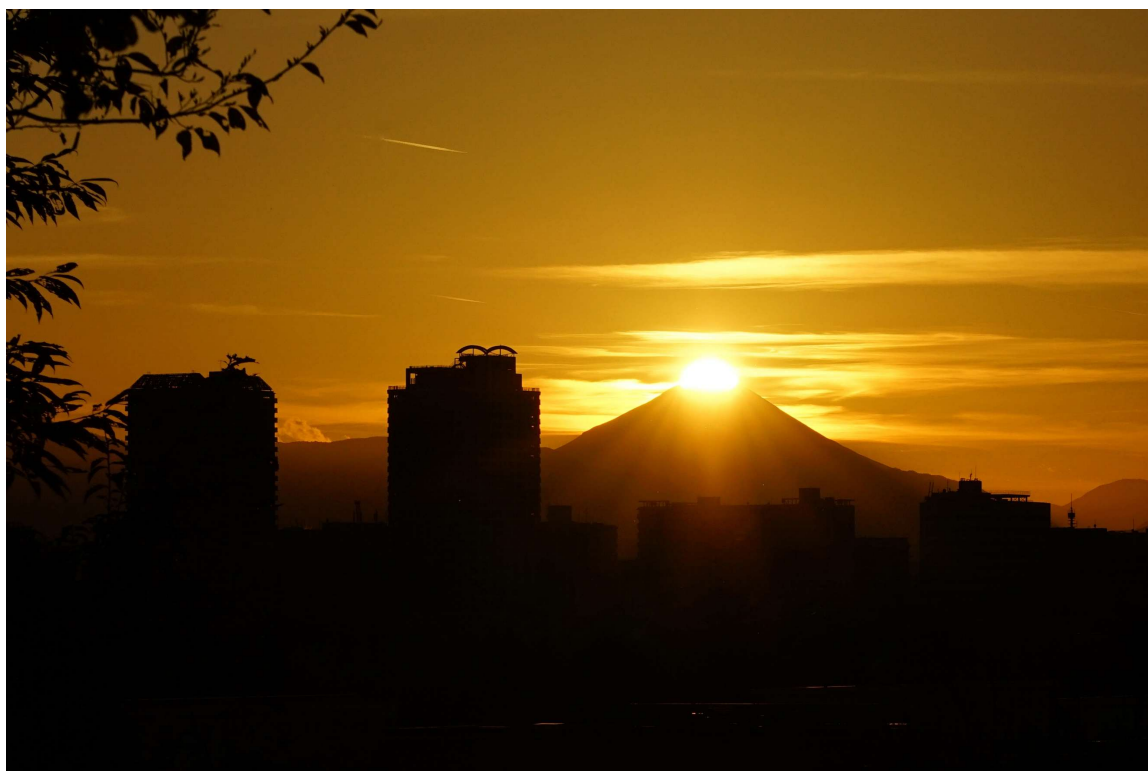


きすげ

No.42

令和6年3月31日

浅間山自然保護会



ご 挨拶

浅間山自然保護会 会長 山田義夫

令和5年5月、新型コロナウイルス感染症は「第5類感染症」に移行されました。政府が行っていた種々の規制は解除され、国民一人ひとり、諸団体の自主性に委ねられました。当会でも、感染対策を施したうえ、一部イベントを中止した他、ほぼ平時と同様の活動を展開しました。

今年の浅間山は、地球温暖化に起因すると思われる異常気象が原因か？過去に例がないほどの雑草の異常繁茂とナラ枯れでクヌギ・コナラの枯損木や落下した枯れ枝の処理に大格闘の1年でした。

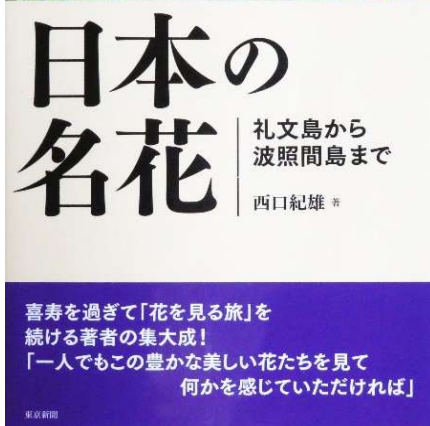
この間、多くの方々にいただいたご厚情は、私たちの活動の原動力になり、力づけられました。

私事で恐縮ですが、令和5年度をもって会長を辞することになりました。永きにわたり皆様のご厚情は、鎌を持つ手にどれほど力が入ったことか、厚く御礼申し上げます。

新年度から、新会長のもと、新たな浅間山自然保護会がスタートいたします。旧来に倍するご支援を賜りたくお願い申し上げます。

府中の名花ムサシノキスゲ

東京新聞より2019年出版の「日本の名花」（著者西口紀雄氏）で紹介されました。



ムサシノキスゲは浅間山だけに自生している貴重種で、大切に保護しています。知名度は徐々に高まり、開花時期には遠方からの来園者も増えています。

見ごろ：4月下旬～5月上旬



第 29 回 キスゲフェスティバル

令和 5 年 4 月 29・30 日 5 月 6・7 日

キスゲフェスティバルは新型コロナウイルス感染症蔓延のため、令和 2 年は開催中止、3 年はオンライン開催、4 年は規模を縮小して開催。本格的開催は 4 年振りで、満を持して開催を待ちましたが、天候には勝てず、4 月 30 日と 5 月 7 日は雨で中止になり、寂しいキスゲフェスティバルになってしまいました。

花の開花状況は、キンラン、ササバギンラン、ギンランはやや最盛期を過ぎたもののムサシノキスゲは見ごろを迎えていました。相変わらずの人気種はギンランで、小ぶりで目立たず、咲いている場所を案内するのに忙しかったです。

【4 月 29 日】

キスゲフェスティバル初日には来園者が少なく、午後は閑散としていた。コロナ感染対策が緩和され、帰省、旅行、各種イベント等行動範囲が広がったからか？

来園者は少なかったが、葉っぱプリントは相変わらずの人気で席が空くことはなかった。午前、午後の 2 回メイン会場で募集した植物観察会は、10 人前後で少なかったが、ゆっくり観察できたとうよろこばれました。



【4 月 30 日】

昨日の天気予報は朝から雨でキスゲフェスティバルは早々に中止されました。

9 時 30 分頃、雨は小ぶりとなり 10 時には雨は上がり、あずまや周辺で除草しながら来園者の対応。小雨の中、「思い切って来てよかった」との来園者の声。雨に濡れたムサシノキスゲの風情もいいものだとよろこばれました。

【5 月 6 日】

心配された天気も早朝から快晴。終日賑わった。

東京私立初等学校協会理科部会主催の「親子で自然を楽しむ会」が開催され 350 人の親子が 20 人くらいのグループに分かれ植物観察。



【5 月 7 日】

昨日の天気予報では、午前中から荒天とのことで早々に中止された。

朝方、今にも降りそうな雲行きであったがあずまや前で来園者と歓談。遠方から来園した植物観察の小グループの方々は、残念そうにしており、園内をご案内。ゆっくり楽しむことができたとうよろこばれました。

4 年振りの本格開催と準備をしていただけて主催者側一同がっかり。

都立井の頭恩賜公園における維持管理の取組

東京都西部公園緑地事務所 管理課長 榎原元秋

1 井の頭恩賜公園に木を植えよう！

～井の頭の森を育てようプロジェクト～

「どのくらい経ったら、大きな木になるのかな？」こどもたちの声が聞こえてきた。井の頭公園では、東京都都市公園制度制定 150 周年記念事業の一環として、令和 5 年 10 月 28 日に、公園内でナラ枯れによる枯損で樹木が伐採された御殿山エリアにおいて、市民と協働して実生苗の植栽イベントを実施した。

事前に公園内で採取した実生苗 130 株（アカシデ・コナラ）をマーキングされた場所に植え付け作業を行ってもらい、使用したミニスコップと職員が作製した缶バッジを参加賞として差し上げた。また、抽選でブルーベリーの苗をプレゼントした。



イベント当日は、朝方は雷が鳴り小雨が降ったものの日中は気持ちよく晴れた一日になった。家族による参加も多く、参加者はそれぞれ楽しみながら作業に熱中していた。午後 3 時には用意した 130 株の植え付けがすべて完了し、また、職員が作製した缶バッジが好評で、複数のデザインから選ぶのに悩む様子が見受けられた。「土に触れることがあまりないので楽しかった」との感想もあり、満足して帰る様子が大変印象的であった。



2 ハンノキ保全市民協働イベント

～わくわく湧水 ハンノキ林作業の日～

井の頭公園では、東京都のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に分類されている「ハンノキ」の林を再生する取り組みを行っている。きっかけは平成 30 年 9 月に襲来した台風 24 号だ。公園内にあった 63 本のハンノキのうち、12 本が倒れるなどの甚大な被害が生じた。

かつては湧き水がしみ出て湿地であった場所に土砂等が流入し、湿地を好むハンノキにとって生育が困難な状態になっていたことから、平成 31 年以降、土砂を取り除き、再び湧き水がしみ出るよう湿地の再現に取り組んでいる。

イベントは、令和 5 年 12 月 10 日、令和 6 年 1 月 27 日の二回開催し、それぞれ 15 名、19 名の参加があった。昨年は降水量が少なく、湿地状態になりにくかったようだが、堆積土の掘り下げに楽しみながら取り組んでいた。また、同時にしがら柵の補修を行ったが、通りかかった公園利用者の方からは「出来ばえがとても見事です」とお褒めの言葉をいただいた。



(堆積土の掘り下げ作業)



(しがら柵の補修)

3 冬の風物詩である「松の雪吊り」作業

井の頭公園では、およそ 40 年前から、冬季に風物詩となっている「松の雪吊り」を行っている。雪吊りの目的は、冬季に雪が付着したときに樹木の枝が折れないように縄（井の頭公園では、畳表の材料のいぐさの縄を使用）を使って吊り、補強することだが、雪の少ない井の頭公園では、冬らしい景観の創出と伝統技能の継承のために行っている。

公園内にある日本庭園において、昨年（2022）の 12 月 7 日に作業を行い、作業中に通がかかった公園利用者の方からは「毎年楽しみにしてい

ます」とのお声がけをいただいた。取り外しは啓蟄の 3 月 5 日までに行った。

雪吊りには兼六園式（りんご吊り）、北部式、南部式の三様式があり、東京都建設局の旧北部公園緑地事務所と旧南部公園緑地事務所が兼六園式から派生させたものを、それぞれ北部式、南部式という。井の頭公園では南部式で雪吊りを行っている。



(雪吊り 南部式)

以上、都立井の頭恩賜公園における維持管理の取り組みをご紹介します。皆様のご参考になれば幸いです。

浅間山の維持管理の取り組みと今後の計画

武蔵野の公園パートナーズ 都立武蔵野公園 所長 大石 哲也

令和5年度の浅間山維持管理は前年に続きナラ枯れ被害木を中心とした剪定・伐採を実施いたしました。夏は雨も少なく酷暑となり、その影響を受けてか一見枯れていないような木も倒木や枝折が発生しており、指定管理者としては特に園路や住宅地に隣接する木を注視し、伐採・剪定を進めています。

6月初旬降った大雨で、堂山・中山・前山の南から流出した土砂が明大側すその道へと流れ込みました。特に堂山南側の側溝（約55m）は全て土砂で溢れてしまう事態となりました。



（土砂撤去作業）



（作業完了後）

台風シーズンを迎えるにあたり排水機能の復旧が急務となったため、業者に依頼し高圧洗浄とバキュームで対応しました。

また、前山西の池広場の井戸ポンプの不良については、ポンプを引揚げての点検が必要とメーカーの調査報告があったため、ポンプの引揚げ点検を実施しました。



（腐蝕した管に穴が開いている）

管は全体的に腐蝕しており、穴も開いていることが動作不良の原因と判明しました。予算の都合上、今年度すぐの交換はできませんが、次年度の計画でポンプの復旧を目指します。

また修繕では前山西すその道の「擬木階段」を今年度中に予定しています。ここも前述のように雨による土砂流出の影響があり、土が痩せて擬木の露出が多くなり、階段の上り下りがしづらくなっています。



（赤線は製作当初あったであろう土の高さ）

対策としては階段の両サイドに流出防止の仕切り板を挟み、固まる土（真砂土）で舗装する予定です。

来年度も危険木の対処を中心に、利用者の安全を第一に考え維持管理をまいります。

最後に、浅間山自然保護会ほか各団体様には日頃より浅間山の活動にご尽力いただき感謝しております。来年度もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

より一層地域に守り愛される浅間山を目指して

武蔵野の公園パートナーズ 協働担当 最首希咲

私が都立浅間山公園の協働担当となってから約1年半。浅間山は、知れば知るほど深みのある場所だと感じています。自然、歴史、景観など、浅間山には様々な魅力や特徴がありますが、私が特に、浅間山を浅間山たらしめていると思うのは、『これまでに地域の皆さんが注いできた想いと努力』です。

浅間山の大部分を占めている雑木林は、長年地域の皆さんの生活の一部として管理利用されており、まさに『地域の想いと努力が注がれてきた場所』です。今では生活様式が変わり、かつてのような薪炭林利用こそされていないものの、昔ながらの「雑木林」が残る場所として、今もなお、地域に守り愛されているということが、様々な声を通してわかります。

そんな背景を踏まえ、2023年度も、地域の皆さんと一緒に多くの取り組みを実施しました。世界で浅間山にだけ自生するムサシノキスゲが見ごろを迎える4～5月には、「キスゲフェスティバル」を開催しました。ポストコロナのタイミングで、旧企画の復活や新企画の導入をして、浅間山の魅力をより多くの人に普及啓発することができました。また、浅間山の保全管理に関わる産官学民様々な方が集まって、浅間山のより良い姿について話し合う「浅間山を考える会」も、年4回実施しました。そして、「浅間山自然保護会」の皆さんには、毎月2回の定例保全活動に加えて、自主保全活動、近隣学校の学習支援、園内ガイド、公園主催イベントや調査のサポートなどを行っていただきました。どれも、地域で一丸となって、浅間山を守り育てるための取り組みです。



(キスゲフェスティバルでの山田会長の園内ガイド)



(浅間山で実施した「浅間山を考える会」の様子)

2024年度は、毎年恒例の「キスゲフェスティバル」が第30回の記念回になります。また、浅間山の保全管理の指針としている「都立浅間山公園保全管理ガイドライン」が、見直しのタイミングに入ります。その他、新旧ともに様々な取り組みの実施を予定しています。私も指定管理者としても、浅間山の今昔を知る「浅間山自然保護会」の皆さんからお知恵を借りながら、より一層地域に守り愛される公園づくりを進めていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



浅間山公園
バス停



▲ 武蔵小金井駅へ



おみたらし神社



イヌシデ

ヤマボウシ

児童公園



すその道

女坂

堂山

浅間神社

キスゲ橋

多磨霊園

浅間山通り

男坂

階段

おもちゃ道

尾根道

あずまや

中山

前山

人見四郎の墓跡

すその道

浅間広場

東府中駅へ

富士見百景

おみたらし神社

おみたらし神社

おみたらし神社

おみたらし神社

おみたらし神社

おみたらし神社

おみたらし神社

おみたらし神社

おみたらし神社

おみたらし神社

おみたらし神社

案内図



浅間神社



ムサシノキスゲ



キンラン



ギンラン



ササバギンラン



ヤマユリ



イチヤクソウ

浅間山は、コナラやクヌギが生い茂り、近隣の農家の生活に密着した里山でした。昔は樹木を燃料に落ち葉は堆肥に利用していました。樹木は樹齢 15～20 年のコナラやクヌギの他、巨木化した樹木を計画的に伐採、また堆肥用の落ち葉掻きを容易にするための除草も行われ、植物にとって快適な生活環境が保たれ、林縁や林床にはいろいろな草花が花を咲かせていたことでしょう。

この環境が破壊されたのは、第二次世界大戦でした。昭和 15 年浅間山を含む東府中北側一帯に陸軍燃料廠が開設されました。浅間山に高射砲が据え付けられ、松根油製造の研究所、防空壕が掘られ軍事目的に使用されました。

終戦後、燃料廠はアメリカに接収されましたが、昭和 32 年に一部返還されたなかに浅間山はありました。浅間山はもともと地元の人たちのもので、地元の要請に応え、国は払い下げました。

この当時、復興を遂げた日本は住宅不足で各地で宅地造成されていました。これに目をつけた住宅会社が買い上げ、昭和 35 年一部工事が始まりました。たまたま、園路の一部に赤道という市道があり、事業者から市道付け替えの申請が出され、市では特別委員会で協議の結果採決されました。浅間山の自然を守るべきと主張した吉野正二市議会議員と同志の蕪木清次議員の二人は都の担当局長と 3 日間の直談判の結果、東京都が全て買い取り、都立公園にするとの回答を得ました。

昭和 45 年 6 月 1 日都立公園として開園したものの、昭和 15 年以降全く整備されなかった浅間山は荒れたままでした。この姿を憂いた府中市緑化推進委員会の委員が立ち上がり学識経験者、東京都みどりの監視員の協力を得て昭和 57 年 4 月 4 日結成総会を経て浅間山自然保護会はスタートしました。

発足当時の構成員は、会長、副会長、会計、幹事、庶務、事業、監査、顧問（以上役員）と会員で構成されていました。会の運営には資金が必要であり、その資金を捻出するのに一口 200 円で会員を募集しました。会員募集は近隣自治会の了解を得て、浅間山自然保護会の役員が戸別訪問してお願いしました。

当時、府中市は府中市自然調査団による府中市の植物調査が始まりました。その中に浅間山も含まれていました。その調査結果は多くの植物が絶滅したり、数を減らしている植物があると報告されました。原因は巨木化した樹木や雑草の繁茂以外に山野草ブームで盗掘されたり、車馬の乗り入れによる踏圧が原因と判明しました。その結果を聞いた浅間山自然保護会は東京都に陳情して、昭和 58・59 年度は数百本の樹木の伐採や、車馬侵入防止の柵を設置してもらいました。その後も植物保護の整備だけにとどめず、来園者の安全を考慮した園路の整備も実施しました。

当時の浅間山自然保護会役員の熱意が東京都を動かし、今の浅間山があるのです。

私たちは、この先人たちの熱い心を引き継ぎ次世代に語り継いでいきましょう。



昭和 40 年代半ばの新小金井
街道建設中の頃の浅間山
この付近は人見原古戦場

浅間山における植生管理の課題

浅間山自然保護会 山田義夫

【ムサシノキスゲ群生地の整備】

1 前山北斜面の群生地化

昔、前山北斜面一帯はムサシノキスゲで「真っ黄色になるくらい咲いていた」と古老から聞かされたのは 20 年前のことで、今でも耳に残っています。

原因は斜面上部の高木化した樹木と中段の大木化した樹木が林床を暗くしているのが主な原因と思われる。いま我々が出来ることは枝打ちと雑草の駆除を続けることでしょう。

この作業中発見したナンバンギセルは、木道下のススキの根に種を摺り付け増殖に成功した。

2 堂山北斜面の群生地化

浅間山で一番の群生地であったこの場所でも樹木の繁茂とアズマネザサで、前山同様ムサシノキスゲは減少してしまった。

私たちは公園管理者の許可をいただき、5 年計画で低木伐採と大型雑草の駆除を行い、ムサシノキスゲは再生したが、好事魔多し、菌核病の発生、子供のかんしゃく玉が原因のぼやで大打撃を受けました。

一時期、種を直播きしたり、種から起こした苗を小学生が植えたりしたが、群生地とは言い難く、道半ば。一日も早く群生地化を目指し整備を続けなければならない。

3 あずまや南側の群生地化

10 年ほど前、企業の CSR 活動、地元小中学校の研修を兼ねた奉仕活動で整備をしてきた場所です。

前山山裾の笹刈りでムサシノキスゲの増殖の可能性があります、他に中山の山裾はヤマユリも増えている。今後も計画的な整備が必要。

【稀少植物の保護育成】

昨今の地球温暖化に伴う異常気象が自然に悪影響を及ぼしている。浅間山でも絶滅したもの、減少傾向にあるものも数多くあり、今後どう保護していくのか大きな課題である。

1 絶滅したと思われる種

＜ジュウニヒトエ＞

あずまや下の窪地に 7～8 株が点在、中山北斜面に 4 株あったが令和 2 年中山で見た 1 株を最後に姿を消した。他にヒメヤブラン、キツネノカミソリ、フデリンドウ、ニョイスミレ、オトコエシ、タシロランなどが絶滅したと思われる。



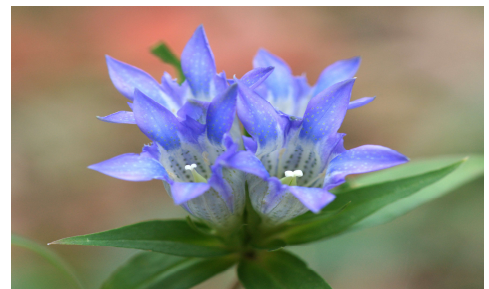
ジュウニヒトエ

2 絶滅が危惧されている種

＜リンドウ＞

現在中山に 1 株だけ。府中市には浅間山だけに自生している貴重種。他にツリガネニンジン、アキノタムラソウ、ヤブレガサ以外にも多数あり、最近最も気になるのは、イチヤクソウが減少していることである。

種ごとに育成環境は異なり、その環境をどう整えるか今後の大きな課題である。



リンドウ

どんぐりの村 浅間山との3年間

東京農工大学 どんぐりの村 齊藤匠泉

【コロナ禍での学生生活】

「コロナ禍」最初の年として、手探りの中迎えた2020年 高3。多くの講義がオンライン開講であった2021年 大1。それから4年が経ち、講義は原則対面、街に出ても「マスクは個人の判断が基本」となるなど次第に実感として普段通りの生活に戻りつつある。

一方で、コロナ禍の活動制限の時に始まった勉強会は今も続いている。代替わりに伴いメンバーの男女比や学部学科の構成比は大きく変化したため、その分勉強会の内容も多様化することが期待できる。

【浅間山保全管理ガイドライン】

どんぐりの村では、上述の勉強会を隔月第4土曜に実施しているほか、隔月で自然公園などへの散策、また第2土曜には浅間山自然保護会の定例作業に参加している。

また11月の農工祭ではキーホルダー販売や浅間山での活動紹介、管理ガイドラインや保護会会報「きすげ」等の展示などを行っている。特に管理ガイドラインは浅間山周辺の住民のほか、都内からいらした方などにも手に取って頂いた。

そんな中、保全に関する知識の無いままに、整備され姿を変えてしまった自然の存在も何度か耳にした。改めて、保護会の存在の重要性、適切なガイドライン作成の必要性を感じた場面であった。

【知識と見え方】

話は変わるが、私には植物研究会に友人がいる。そのため、サークルの活動外でも植物の知識は少しずつ増えていく。ここで面白いのが、山に入った時の自然の見え方が毎回まるで違うことである。

最初に保全活動に参加した際は、右も左もわからず、それどころか植物の区別さえロクにできていなかった。その後、浅間山自然保護会山田会長の案内で浅間山を一周し、最低限の知識は身につけたものの、到底人に教えられる段階ではなかった。

一年ほど活動すると、ふしぎなことに遠くからでもコナラの実生やコウヤボウキ、春にはムサシノキスゲの若芽、初夏にはヤマユリなどが目に付くようになった。数回後の活動時には、木漏れ日と木陰、山の西側(新小金井街道側)と北側(おみたらし神社周辺)での植生の違いに、はっきりと気が付くようになった。

半年前、ついに樹木図鑑を購入した。まだわかりやすい樹種しか見分けられないが、いつかは周囲の環境を含め解説できる知識を身に着けたいものである。



浅間山自然保護会に入会して

千年原 聡

私は昨年 67 歳になったころ、府中に 52 年も住んでいるのに、そういえば地元の方々とのお付き合いが少ないなあと感じておりました。

すでに、人生も一回りしており、仕事や子育てもひと段落したこの時期からは地元の方々と素朴な付き合いができたらいいなと思い、試しに「浅間山自然保護会」に 2022 年 10 月下旬から入会いたしました。

その結果、同年代以上で活力のある方々との交流が生まれ、正直驚いております。またこの時期に、同時並行でこちらも試しに受講してみた府中市プラッツ市民講座の「トコロジスト」「つなぎすと」養成講座を連続履修してみたところ、受講生の有志で市民団体「お山（親ま）で遊ぼう実行委員会」を立ち上げることとなり、その活動も保護会の活動と同時にやることになりました。

その過程で、「武蔵野の公園パートナーズ」との交流も生まれ、そこと協力して、府中市の後援やプラッツの協力も得て 2023 年 9 月末に未就学児とその親御さん向けの音楽イベント「街中のお山の小さな音楽会」を浅間山のあずまや付近で無事に開催することも出来ました。



浅間山はかつては、私の 3 人の子供たちと夏休みに虫取りに来た思い出深い里山でもあります。いまは、女房と 1 匹のワンちゃんと散歩をする癒しの空間です。

この癒しの空間に、さらに多くの市民が集うようになりその自然の価値を理解していただき、次世代の方々がこの豊かな自然環境の価値をさらに後世に受け継いで行ってもらえるような情報やイベントの発信を、私なりに出来たらいいなとの思いで「浅間山自然保護会」の活動に参加しております。

また、私個人の感想ですが、この浅間山の夏は「ヒグラシ」が群生して鳴き盛りですが、府中市内であれだけ多くのヒグラシの蝉時雨を聴けるスポットはまれだと思っております。

このような、多くの蝉が生息する場所なら、それを捕食するフクロウの仲間の「アオバズク」もいるのではないかと、ひそかに期待をしております。夏の夕暮れに「ほっほ～ほっほ～」と鳴くアオバズクの鳴き声がもし聞けたら新しい発見になるので、大変うれしく思います。

最後に、浅間山は潜在力の高い街中の里山だと感じております。「農工大の森」から「府中の森公園」、「浅間山公園」、「多磨霊園」、「武蔵野公園」、「野川公園」と続く緑のベルト地帯はこれからも大切に守っていかなければならない価値ある地域だと思います。

この貴重な地域には、これからの時代に沿って新たに取り入れていくべきコト、モノ、ソフトも多々あると思います。

その新旧双方のヒト、モノ、価値感も大切にしながら浅間山の自然環境保護をサポートするマンパワーの一助になれば幸いです。

令和 5 年度事業報告

令和 6 年度事業計画

月	内 容	月	内 容
4	第 4 1 回定期総会 (4/16) 浅間神社例大祭 キスゲフェスティバル (4/29-30) 浅間山樹名板取り付け (1 回目)	4	第 42 回定期総会 (4/14) 浅間神社例大祭 キスゲフェスティバル(4/28-29)
5	キスゲフェスティバル(5/6-7) 若松小 3 年生学習支援 (校内)	5	キスゲフェスティバル (5/4-5) 浅間山保護活動(若松小) 浅間山保護活動(浅間中)
6	浅間山探検 (若松小) 浅間山保護活動 (浅間中) 府中市環境まつり出展 ヤマユリ観賞会	6	ヤマユリ観賞会 若松小 3 年生学習支援
7	若松小「ふれあい祭り」参加	7	若松小「ふれあい祭り」参加
8	安全講習会	8	
9		9	安全講習会
10	浅間山保護活動 (若松小) 浅間町共栄会主催ハロウィン参加	10	浅間山保護活動 (若松小) 浅間山保護活動 (浅間中)
11	府中市市民協働まつり (プラッツ) 出展 「ダイヤモンド富士」お知らせ (11/21) 浅間山樹名板取り付け (2 回目) 森キッズ in 浅間山	11	若松小 3 年生学習支援 「ダイヤモンド富士」お知らせ (11/21) 森キッズ in 浅間山
12	会員忘年会	12	会員親睦会
1	初日の出遙拝 「ダイヤモンド富士」お知らせ (1/21)	1	初日の出遙拝 「ダイヤモンド富士」お知らせ (1/21)
2		2	
3	会報「きすげ」42 号発行	3	会報「きすげ」43 号発行

- 定例作業： 月 2 回 (第 2 土曜日・第 4 日曜日) (8 月は休み)
- 役員会議： 毎月第 2 火曜日

ご協力ありがとうございます

ご 寄 付 者		会 費 協 力 団 体	
加藤 恭子様	浅間町婦人会様	武蔵野学園様	山吹会様
高綱 ミツイ様	若松屋様	むらさき会様	つくし自治会様
		浅間町三丁目自治会様	浅間町二丁目自治会様

浅間山自然保護会会則

第1章 総則

第1条 名称

この会は、浅間山自然保護会（以下会という）と称する。

第2条 事務局

この会の事務局は会長宅に置く。

第3条 目的

この会は、浅間山の自然環境を保全して、生物の保護・育成及び史跡を保存することを目的とする。

第4条 事業

この会は、目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 浅間山の自然環境の保全
- 2 全山の清掃活動
- 3 生物の保護・育成
- 4 監視
- 5 会報の発行
- 6 地域への貢献

第5条 組織

この会は、会の目的に賛同する者をもって組織し、正会員、団体会員、賛助会員で構成する。

第2章 会員及び年会費

第6条 正会員

正会員は、会の運営に協力して、すべての事業に参加、会の目的達成に努力しなければならない。

第7条 団体会員

団体会員とは、会の目的に賛同し、会の事業運営を側面から支援する各種団体をいう。

第8条 賛助会員

賛助会員とは、会の目的に賛同し、側面から支援する個人及び各種団体をいう。

第9条 年会費

1 正会員は1口1,000円、賛助会員は1口200円とする。

2 団体会員は、団体の規模により任意とする。

第3章 運営及び役員

第10条 機関

この会は、次の機関を置き会の意思決定を行う。

- 1 総会
- 2 役員会議
- 3 全体会議

第11条 役員

この会に次の役員を置く。
会長1名、副会長(会長補佐)2名、他に役員若干名、監査役2名、相談役・顧問若干名。

第12条 役員の任期

この会の役員の任期は2年とする。

第13条 定期総会

- 1 定期総会は、正会員及び団体会員の代表者を以て構成し、年1回4月に開催する。
- 2 定期総会は、会の最高決議機関として役員の選出、事業方針、予算その他重要事項を審議する。
- 3 定期総会は、構成員の2分の1以上の出席で成立し、議決は出席者の過半数で決定する。

第14条 臨時総会

臨時総会は、役員の要請に基づき随時開催できる。

第15条 役員会議

- 1 役員会議は、役員により月1回開催する。
- 2 定期総会の定めに従い、浅間山の整備及び会の運営の具体的施策を検討する。
- 3 全体会議は役員会議の要請に基づき重要案件を審議する。

第16条 施行

この会則は、令和5年4月1日改訂施行する。

浅間山自然保護会会員

令和6年3月31日現在

氏名	住所	氏名	住所	氏名	住所	氏名	住所
秋林奈津子	新町	小藤東洋	浅間町	永井佳久	府中町	山中由里子	宮町
安齋茂	浅間町	小森由香	新町	中嶋陽一郎	小柳町	山村美保	若松町
岡邦夫	矢崎町	小宅正市郎	若松町	永山伸	新町	山田幹雄	浅間町
岡庭敏夫	若松町	坂田美世子	小金井市	平井英彦	小金井市	山田義夫	浅間町
小野要次郎	緑町	佐々木さゆり	晴見町	堀中洋一	浅間町	山本肇	若松町
加藤芳夫	浅間町	佐藤重秋	新町	本田裕昭	白糸台	横山永望	浅間町
上垣内正子	若松町	佐藤眞澄	緑町	米田勢子	若松町	吉村千恵	若松町
川合智	小金井市	澤木美晴	若松町	前川浩子	若松町		
神田邦雄	浅間町	住吉晴美	若松町	前原義彦	清水が丘		
神田喜美子	浅間町	千年原聡	天神町	丸本智運	府中町		
菊池克彦	紅葉丘	土橋重政	新町	丸本和江	府中町		
後藤幸子	浅間町	中川君枝	府中町	村杉敏次	幸町		

会員募集!!

<連絡先>

浅間山自然保護会
前原義彦
090-5704-9218

会報発行責任者
浅間山自然保護会
会長 山田義夫
090-5769-0404



アキノタムラソウ

浅間山 花シリーズ 19



減少傾向にある希少種
やさしく見守りましょう



ツリガネニンジン



ヒトリシズカ



ガンクビソウ



ネコノメソウ



フデリンドウ